

令和6年度 第4回白井市市民活動推進委員会（全体会）

日時：令和6年11月28日（木）

午後1時00分～2時45分

場所：白井市役所東庁舎1階 会議室101

議事1 令和6年度白井市市民団体活動支援補助金採択団体中間ヒアリング結果について（資料1・追加資料1）

（事務局説明）

○●●委員 皆さん、よろしくお願いします。

白井市文化センターを未来につなぐ会の謎解きは私、やってみました。最終日にやらせていただいたのかな、たしか。今、お手持ちのそれは、私も作りまして、私の書斎の机に飾ってあります、結構よかったです。いわゆるソフトの取組だと思いますが、まさにこの委員会で補助している制度の基本的にはソフト事業の取組なのだと思うのですね。

文化センターのこの取組に関しては、取組自体はソフト事業なのだけれども、意図としては、ハード施設を今後よりよくしていこうという、そういった課題関心が結構あったと思っています。

何が言いたいかというと、ソフトの取組を、市民活動団体が活性化していくためには、中心的に据えることがとても大事なのですけれども、一方で、拠点となる設備とか施設とか、先ほど備品のお話もありましたけれども、そういった備品類とか、あとハード施設の的なもの、そういったものも、やはり大事なのですね。活動を安定的に継続的に取り組んでいくためには。社会教育の分野でもよく言われています。環境をきちんと醸成するということがすごく大事だと言われています。

これまでも社会教育行政において、施設を中心としていろいろなものを作ってきたという経緯があるのですけれども、今日、白井の取組でも、非常にソフトの取組がすごく活性化しつつあるので、それに合わせた形で様々な設備だとか施設ですね。ハード設備と一緒に構想して再構築していくということは大事なかなというふうに、この事業に参加しながら、私も改めて思った次第です。

ちょうど文化センターも改修の時期ということでもあるので、いわゆる市民参加型で、市民活動の取組がすごく良い形で展開しようというような、そんなような拠点となるようなハード整備のところにつながっていくといいのではないかなというふうに思いました。

そういった議論は、なかなかこの委員会ではしていなかったかと思うのですけれども、

そのようなアプローチ、議論も今後、大事ではないかなと思った次第です。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほか皆さん、御自由に何かあれば。この事業に参加された方とか、あるいは見聞きしたとか、あとは、まちサポさんへの提案、要望というのを出ていますけれども。

○事務局 もう一つだけ追加で説明させていただいてよろしいでしょうか。事務局として気になる補助金の件なのですけれども、実はこの中間ヒアリングの段階で、活動促進型の桜の会さんと、白井文化センターを未来につなぐ会さん、来年、もしかしたら補助金は申請しないかもしれないというようなことを、せっかく、この文字どおり発展型という補助制度を設けているにもかかわらず、あまり今のところは前向きには考えていないような御発言があったのです。

振り返ってみますと、前年度も、しろいdeあそ部さんでしたり、sketch倶楽部さんも、発展型をまず1回受けたのですけれども、その後に補助金を受けることやめています。ここ2年の間、今までは、ほぼ、コロナとかもあるので、ちょっと例外はあるのですけれども、補助金、通算で言うと4回受けられるのですけれども、4回を受けずにその途中でやめてしまうという団体が増えつつあるのかなというのもあり、その辺も踏まえて、追加資料にあるような補助率の変更とか、昨年度の委員の中でも話してはきたところなのですけれども、そういうのもちょっと考えていかなければいけないのかなというのは、ヒアリングを経て感じた所感です。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。補助金のフレームワークというのは、例えば、上限金額とか、連続助成が何年可能とか、あと重要な点として、今おっしゃったような補助率というのがあります。助成率とか補助率というのがあるって、逆に言うと、自己負担がどれだけ必要かというところは、これは考え方次第でいろいろありまして。国の補助金とか、文化財団の助成金も、低いものだと本当に3分の1補助とか、5分の1補助というものから、100パーセント補助ですね。全額補助金でできるものとか、いろいろパターンがありますので、その辺は論点かなとは思いました。

いかがですか。なければ、今日は押し気味なので、早く行ってしまいます。

どうぞ。

○●●委員 大したあれではないですけど。清水口つながり協力委員会なのですけれども。夏祭りとか、今度は13自治会ですか、増えているということなのですが、大山口小学校区のまち協の会長しているのですけれども、いつも同じ日なのです、夏祭りが。そういうわけで一度も行ったことないのですけれども。

それで、我々の場合は、もともと自治連合会の支部が夏祭り、あるいは防災訓練を行ったのです。それがそのまま小学校区のまち協として引き継いでいるところがあるので

すが、清水口の場合は、13自治会ということで、小学校区は超えているというふうに考えてよろしいでしょうか。

○委員長 分かれば、お答えをお願いします。

○事務局 お答えします。超えてはいないです。今のそれぞれの構成自治会数が、そのまま実行委員に、何かしらほかにお金なり人なりを出しているということです。

ちなみに私、この夏祭りも、担当者ということで伺わせていただいたのですが、なるほどなと思ったのは、まず、ここにも書いてあるのですが、お祭りのときに、よく工事現場で見る、工事のときに風船みたいな形をした照明器具をレンタルし、あとは、ここにも書いてありますけれども、LEDタイプの照明をレンタルしていました。

それは何かというと、防災にも転用できるかなということで、行く行くは、そういうものの購入も考えているのだけれども、まず性能とか使い勝手とかを把握したいので、今年度はレンタルで、かつ防災訓練をやる前に、夏祭りで試してみたというようなことでした。非常にそういう意味では、お祭りで生かせることは、防災というのもあるのだなというふうに思って、話を聞きながら、お祭りを過ごさせていただきました。

以上です。

○●●委員 ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。ほか、いかがですか。

どうぞ。

○●●委員 補助金について、補助金交付規則では、概ね2分の1というような目安もあると思いますが、私、市民委員の考えと立場から発言させていただくと、その団体がきらっと一回輝くだけでも、その団体の活動がみえるということでもありますので、その市民活動団体の活動を市民皆さんに知ってもらい、結果としてその機会を支援し促進する、繋げていくということも、制度の本旨として良いのかなと思います。今後は補助金交付率の形態を検討していただき、様々な団体に利用していただきたいと思いました。

制度として気になる点として、活動発展型の2回目、3回目の補助率を高くしてほしいというのは、団体がしっかり制度、制度の狙いを団体自体が御存じない、または団体への説明が不十分なのかなと感じました。つまり、1回目、2回目、3回目と補助を受けて、4回目の補助はない訳ですから、補助を受ける際の本会計がその後の団体の身の丈に合っていない、補助が終わり団体の報告では急にはしごを外されてしまって、活動がしぼんでしまったみたいな発言が大変気になり深刻だと思いました。

ここは制度として補助金とは別のアドバイスをしていかないと、逆に補助の最後に、「何で」みたいな話で市が恨まれてしまう、制度への批判的な発言を残すのは、言い方はきついかもしれませんが、団体は補助金のあり方を理解していたのか、そもそも市からは一例として「(本)会計」について丁寧に説明をしてあげたのか、十分な制度説明もないまま補助金終了で本会計だけが膨らみ、同じ事業が継続できない、つまり補助を

受けていた期間に4年目の活動のあり方を模索しないまま補助を受けていたというような団体のやりきれない思いがここに出るのかなと読み取った次第です。

これは団体も、補助する市も不幸なことなので、包括的な制度説明と団体の理解が必要と感じました。

そこら辺、他の部署・所属につなげると一見すると簡単に思われる方もいるかもしれませんが、この支援制度で一番大事で、場合によっては難しい話なので、そこを市も制度上重視して、市民活動支援課だけでなく、ほかにも公園・土木とかにつなげて動く、発展させる。ここは福祉だったのかもしれませんが、福祉につなげるとかということで補助を受けたことで、より発展し、例えばNPO法人に発展すればいいのではないのかなと思います。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○事務局 ありがとうございます。実際に、今まだ現在進行中で、お話をさせていただいてなかったのですが、事務局も、委員のお考えのような思いもあって。つなぐという意味では、グリーンレンジャーさんは今、5万円の補助金に申請しておりまして、この取組も、実は初めてなのですが、グリーンレンジャーさんにちょうど適当かなと思われる補助金を見つけることができたので、つなぐということを今、今回初めて実施はしているところなのですね。

それがうまくいきそうであれば、補助率を、市もやっぱり予算が限られていますので、上げないというわけではないのですが、上げなくてもやっていけるということが実証できるようであれば、このままで行ったほうが、以前の議論の中でも、ころころ変えられては、その制度の理解が追いつかなくなって、団体としても逆にやりづらいみたいな御意見もあったところなので、そういうのも勘案して、より団体が活動しやすい形で、文字どおり、まちサポと一緒にサポートできていければなというふうに思います。

ですから、特に、お金をかけなくても済むような方策として、団体が持っている備品の抛出であったり、そもそも、登録してある90以上の団体が本当に必要とするものであれば、そこが持つというのも、できなくはないのかなというようなことで、結構、この追加資料の中でも、1と2を比べると、2のほうがすごく圧倒的に時間がかかって、お話し合い、意見出しみたいなものがされたというのが16日でしたね。

なので、またグリーンレンジャーさんの5万円なのですが、補助がどうなるかというのは、次回以降に御報告ができると思いますので。

○委員長 ほか、いかがですか。

どうぞ。

○●●委員 今、お話を聞いている中で、桜の会とかグリーンレンジャーさん、桜の会のことについては、立ち上げるときの準備の品物が欲しかったんだということでしたの

で、この辺で、活動する中で購入しなきゃいけないものは確保できたので、あとは自分たちで独立して、それを使ってやっていけるということができますので、桜の会の方たちは、これはこれでいいのかなと感じますし。

グリーンレンジャーも、ある程度、活動する中で、道具が欲しいとか、何が欲しいという形で、安全面も含めての道具もそろえるのだということですから、これはこれで、私はそういう形での準備する段階で補助金を使っていくという形でいけば、それなりに毎年毎年出る支出ではないですから、そういう面ではいいのかなと感じます。

清水口のつながりの団体は、夏祭りで投光器をリースしたというのですけれども、これも私、この間言ったのは、買ったほうがいいのではないかという話をしたのですけれども、それはそれで次の段階で、そういうのを購入する段階になっていけば、自分たちの活動の資料を形成できるという形にできたらいいなと思っております。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。まだ大丈夫ですけれども。

どうぞ。

○●●委員 追加資料のところの、一番下のところに、まちサポ通信の配布の件なのですが、自分たちに関係のない団体には、というようなことが書いてあるのですが、いろいろな団体さんの中で、何がきっかけで、その団体さんとのコラボが起こるか分からないと思うので、自分たちに関係がない活動であっても、それは登録団体さんのほうに見ていただいたりということをしていただけたらありがたいなと思うのと。

あとは、これは、ここの団体には関係ないとかいうようなことをまちサポで判断するというのが、とても難しいことなのではないのかなと思うので、どこに広がりがあるか分からないという意味も込めて、特に登録団体の皆さんは、特に通信を見ていただけたらいいのかなというふうに思いました。

○委員長 ありがとうございます。その点を含めて、また後で、まちサポの事業の中でお答えください。

ほか、いかがですか。

どうぞ。

○●●委員 先ほどのお話を聞いていきますと、桜の会さんは、二小のPTAの方が中心でということで活動されていたようなのですが、実は私も、PTAのほうの代表のところでも、この会にお邪魔をさせていただいておりますが、最近PTAというのが非常に肩身が狭い。何年か前ですと、PTAは強制参加みたいな形で皆さんから参加をいただいていたところだったのですが、最近、もっと前からだったかと思うのですが、あくまでも任意団体、任意活動だよと、参加だよということで、各学校、大分今、加入率が下がってきている状況にあります。

また、その年、その年の会長さんのカラーというのがいろいろ出てきたりしますと、

P T Aは要らないのではないかという話が出たりとかしますし、また、今まで強制参加だったから参加する気がなくなったけど、その辺は、出たいときに参加するのだよという形になれば、反対に、それだったら参加したいなというような方たちが今いる状況の中なのです。

そういった話の中で、二小さん、大分子供の数も少なくというところですけども、頑張って今後につなげてもらいたいなというふうに思っているところです。

あと、清水口さんのところですけども、防災関係も一緒にやっていただいているので非常にありがたいかなと思います。

先ほど出ました活動促進型を使ってから、その後の発展型につながっていないところがあるというお話だったのですが、実は私も何年か前に、防災リアル訓練で活動促進型を利用させていただきました。コロナが挟んでしまったということもあったのですが、どうしても、その団体としては収益がなく、ほかの方たちからの寄附という形で頂いて運営をして、その運営費の一部をこの補助金を使ったというような形だったわけなのですけれども。いろいろと地域の活動とかに参加をしていきますと、リアル訓練単独の組織を使わなくても、もともと自治連とか自治体とか、市民含めてそうですけれども、そちらのほうで防災ってできるよなという思いがあったりですとか、そちらには補助金が出ている状況がありますので、そこをあえて単独の防災リアル訓練が補助金をもらってやらなくてもいいよなという気もありながら、発展型のほうは申請だけして、コロナで取り下げて、そのまま今、大分しぼんでしまっているという状況になります。すみません、自分のところの言い訳で申し訳ありませんが、以上です。

○委員長 とんでもないです。ありがとうございます。

あとお一人ぐらい行けますけど。このテーマはよろしいですか。

それでは、これについては報告メインということですので、皆さんこういった形で今年度も、冒頭御説明ありましたけれども、順調に進んでいるということでありたいことだなと思います。

## 議事2 令和5年度しろい市民まちづくりサポートセンター事業報告及び令和6年度事業経過・事業計画について（資料2・3）

（事務局説明）

○●●委員 4ページなのですが、全体の利用人数は令和4年と令和5年の比較で、会議室・多目的スペースは令和3年と令和4年の比較なのですが、これ何か理由はあるのでしょうか。

○委員長 要は、これ単純に記載ミスじゃないかということですよ。

○事務局 記載ミスです。申し訳ございません。4年度と5年度の比較です。

○委員長 ほかはいかがですか。

どうぞ。

○●●委員 今日、こちらに参加する前に、私の勤務地でどれくらいボランティアやっているか、市民活動団体があるのかというのを聞いてきたのですけれども、20万都市で六十数団体がやっていることらしいんです。そうすると、白井市は3倍以上、掛けたら物すごい数字になるだろうなと思うのです。私、市民活動団体のもちろんサークルとか合わせるともっと多いと思うんですけれども、どんどん、どんどん掘り起こしとか、いろいろな団体を育てていけばいいのですけれども、それなりにかなり多い市民活動団体が活動しているということを理解しました。

今、さっきからバトンタッチできる人材を望んでいるというような観点から考えると、私、何度も話したと思いますけれども、白井高校とのというのがありましたよね。あの若者の活動については、一つ、高校生をといるところはそうなのですから、実際、機能としてはもっといろいろなところに丸ができて、すごくいいトリガーになるのではないかと。

何でかという、子供を手段と言ったら言い方が悪いのですけれども、保護者の方が出てくるので、それで結果的にそういう意識が芽生えて、子供がやるならということで一緒にやっていくというところがあると思うので、先ほど校長先生のお話の中で、ボランティア相談疲れしちゃっているみたいな話もあったのですけれども、それは、まちサポのほうである程度束ねて整理してやればいいと思うので、市内小中学校もありますし、白井高校もあるわけですから、そういうところを使って保護者と連携していけば、うまく機能していくのではないかなと思うのです。

何でかという、今、多分、市民活動団体、特に植栽をやっている方って60代後半とか70代、80代だったりすると思うのです。これを次の世代にバトンタッチしようかとバトンを出していても、次の世代の人たちって、今、定年延長とか、結局バトンを受け取りたくても、逆に余暇を過ごしたくても、老後を楽しく過ごしたくても、それができないと。なので、第一次ベビーブームから第二次ベビーブームへのバトンタッチは、ちょっと難しいと考えるならば、子供をうまく活用というか、手段として、保護者なりを呼び起こして、それを人材を掘り起こしていく。そうすると、各団体に振り分けできるというか、望まれる人材がそこに所属していくと思うので、そういうところに傾注していくのもいいのかなと思いました。

あとは、まちサポのこの資料について、市民活動団体そのもので、こういうような束ねてくれる、情報発信するような、ここのグラフにある、まちづくりボランティア連絡協議会と書いてあるのですけれども、これはどういう機能を果たしているのか、ちょっと教えていただきたいのですけれども。

○委員長 じゃあ、ちょっと。

○●●委員 一問一答で、ボランティアの中で割り振りをするならば、人的資源の「掘り起こし」のほうに振り分けられると思いました。

施設の利用状況の中で一番気になったのが、パソコンの利用について、これ賃貸借契約かと思いますが、利用率から市民活動団体のスマホ普及率が高いと推測すれば、パソコンは不要。USBメモリの印刷用のパソコンという意味であれば、再検討し提供のあり方を考え、必要か決めればと思うのです。パソコンに限って言えば、個人的にはスマホで十分だと、団体への情報収集や提供が受けられる、また集まりなどの「場の提供」、多目的スペースや会議室があれば良い。以前のパソコンのあり方と今のスマホ普及率を考えれば、団体、サポートセンターにとって本当に必要なのかと思った次第です。他にも事業費の中で時代に即した形態へ移行した方が良い。

なので、繰り返しになりますが、60歳、80歳、90歳と区切って書かれておりますが、スマホで、御高齢と言ったら失礼ですけども、活動されている方は、パソコンは必要としていないという分析をもしできるのであれば、そういうような賃貸借費用なんかも、違ったものに振り分けられるのかなと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。何か今のことで答えられるところありますか。なければ御意見として承るということでもいいですかね。

○事務局 はい。

○委員長 ほかの方いかがでしょう。

どうぞ。

○●●委員 今、まちづくりサポートセンターさんの活動報告などを伺って、今回、先ほどセンター長からあったとおり、まちボラひろば、市民活動とボランティアが一緒にやってみましょうということで、まちボラひろばという新たな名称をつくって試みてみました。

その中で感じたのは、まちづくり、まちサポさんのほうが企画力や、または、いろいろな準備ということについて、すごく長けているのだなというところで。

それから、この今、資料を拝見させてもらって、活動の幅が広くて、一緒に今回、催しをやってみた中でも、大変苦労されているし、工夫もされているなというのを感じた、それが感想です。

あと、若者を市民活動に取り込みましょうという課題については、社会福祉協議会がボランティアの育成というところに関わっているのですが、そこについても全く同じことが言えて、若者を取り込む難しさ、何かというとボランティアで活動する人も、市民活動と同じように、やっぱり中心が70代ぐらい、60代後半から70代と。これ、定年の関係とかいろいろあって、やむを得ないことなのかなと思いつつも、若者、高校生で言えば白井高校、今、市民活動とかボランティアなど、多く関わってくれてはいるのです。



が、彼ら彼女にとっては、学校の部活動があったりとか、趣味の習い事に行ったりとか、習い事があったりとか、それは一つの市民活動みたいなものなのかな。

世代を変えてくると、例えば学校に行って、PTAに関わっている、先ほどPTAの話もありましたけれども、そういった活動をするのも一種のボランティア、市民活動に通ずるところがあるのかなと。

だから、高齢者が増えてきているというところをプラスに捉えれば、それだけ生きがいを持って70代、80代まで活躍してくれている、それが社会参加にもつながっているのだ、社会貢献にもなるのだといったところかというと、若者を取り込むということに水を差すわけではないのだけれど、90代でボランティア活動をやっている方もいますけれども、そういった方がいることを喜びと感じたり、市民活動もいつまでもそうやることを支援してあげるといったところも、引き続き力を置きながら、あとは若者がそのときになったとき、ママさんパパさんがそのときになったときに、スムーズに入れるような環境づくりといったところにも着目して進めてまいりたいと思います。感想でございます。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほかはいかがですか。

どうぞ。

○●●委員 「毛糸でなにをするかい？」と「Oh♪しゃべりあーも！」の御報告をいただいて、両方とも新規事業で企画されたと思うんですけれども、「Oh♪しゃべりあーも！」のほうは、国際交流協会が単独で今度主催というか、なったということで、「毛糸でなにをするかい？」というの、交流の場をつくるということで、目的がすごくいいなど。楽しく、いろいろな方と交流をやってきていてよかったというふうに思うのですけれども。

意地悪ではないですが、センター長もおっしゃっておいりましたけれども、今後どういうふうにするかということで、やはり趣味的なことに、ずっとそのまま行ってしまうのは、ちょっと市民活動とは違うのかなと。どこかで線引きをしないといけないのかなと。

あと、ここで活動している人たちが、市民活動というものがどういうものなのかとか、例えば登録を更新するときに、公益的な活動をしましたかとか、いろいろな項目をチェックされながら更新をできる。それが、ただの趣味的なものがずっと1年以上も続いてきていると、今後もそのまま続いていくというのは、ちょっと違うのかなと。

少し、ここで活動している人たちに、市民活動というのはこういうことだということ、少しでも分かって、伝えられていればいいのかなというふうに思いました。感想です。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いらっしゃいますか。

どうぞ。

○●●委員 さっきから皆さんがおっしゃっている担い手というのは、どこでもすごい課題になっているなと思ひまして。課題であるのだけれど、市民活動団体さんは、本当に無償でやられているのですよね。本来なら、ここパートで外に出たら、時間給、今、1,076円もらえるところを。

そこで物事をすごくされているのが、すごいなと思ひます。継続がまず難しいなと思うのと、立ち上がるには、すごいパワーがあれば何とかなるのです。1年、2年は何とかなるのですけれども、その後、先ほどのお金の件もそうなのですけれども、自分たちで活動資金を用意しなければいけないとか、これを続けていくには何かしなければいけないとか。でも事業も考えなければいけないというか、でもボランティアなのだから、そういうことを考えながら、ずっと続けられる方というのは、本当に難しいと思ひます。

学生さんになると、特に、勉強が本分ですので、一応ボランティア部の方々は、これを行ったことによって、ちょっと内申がよくなるよというのは聞いておりますけれども、それでも全ての白井市内のボランティアを引き受けるわけにもいかないですし、本当に難しいですよねと思ひました。

60代過ぎの方は、まだ働きたいですし、現役なので、じゃあどこにバトンタッチすればいいのと、今、すごいどうしようとセンターでも思ひています。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

●●委員はいかかでしょうか。

○●●委員 感想になりますが、まず前段の御報告いただいた追加資料の2のところが皆さん強い思ひを持たれているというところで、このお話聞きながら、団体間をつなぐような機会があるといいのかなと思ひて、最初聞いていました。

それぞれがどういう備品を使っているとか、そういうところが、声が上がってきたりするといいのかなと思ひながら、今の御報告聞かせていただいた中で、イベントとして、21ページのところで団体間をつなぐイベントも企画されているところは拝見させていただきました。

ただ、一定のタイミングとかもあって、つながれる機会が限られてしまうことを考えると、団体間をつなぐ何かを提供できるといいのかなということで。つなぐというのは何かだと考えたときに、それぞれの団体を知る機会、そういう場がある。あとは気軽に会話できるような場というか、クローズドのSNSのコミュニティか分からないのですけれども、そういう場があるといいのかなというところと。

あと、団体自体は高齢化が進んでいるということですので、そういった発信をする上でも、フォローアップも必要なのかなと思ひていまして。例えば、そういうところで若

い方のボランティアでフォローし合ってみたいなところです。

団体数も8団体減っているという事実もあるので、団体間の刺激が活動のモチベーションにつながればいい。長く続けられている団体をフォローするところにも力を入れていってはどうかなというふうに思いました。

1 ページ目のつなぐというキーワードが、市民と市民活動をつなぐというようなキーワードだったのですけれども、長くつなぎ手をやっている団体同士をつなぐという部分でも、今後、検討されてはどうかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

あと、どうでしょう。

どうぞ。

○●●委員 まちボラひろば、去年は同じ2団体が開催していたのですけれども、告知がなさすぎて、それぞれ独自でやっていて、まちサポのほうがかなり人が多かった。あとは、ボランティアセンターのほうが少なかったという感じがしましたが、今年はこのようにチラシもできて、両方うまく交流できたのではないかなと思います。

あとは、告知がまだ足りないようで、先ほどもおっしゃっていましたが、一般の方にもっと来てもらえると、ボランティア活動の良さ、そして参加、ボランティアしてみたいと思う方もいらっしやるとは思います。

11月23日には、総合公園でライオンズクラブがミニ動物園を開いておりまして、2000名ぐらい参加していたようです。お天気もよかったと思うのですけれども、またそういうのと一緒に、日にちも統一してやれば、もっといいのかなと思いました。

あとは私、白井ワクワクひろば、こども食堂をやっております。私たちの会員は、中学校のお母さん同士、白井中学校の3年生、卒業して同時にこのワクワクひろばを始めて。ですので、みんな若いママで、私が一番年寄りです。ですので、私たちの団体は若いほうだと思えます。でも、これが何十年もしていくと高齢になってきます。

跡継ぎはというと、今ワクワクひろばに参加してくださっている親子さん、毎回休まず参加してくださっている方たちもいらっしやいます。その小学校低学年で参加したお子さんは、今やもう6年生、来年は中学生になって、先頭を切ってお菓子を皆さんに配ってくれたりしておりますので、そういう子が多分、私たちの跡継ぎになってくれるような気がしております。私たちの団体の紹介です。こういうこともあります。ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがですか。

どうぞ。

○●●委員 どうもありがとうございました。

改めて今回、まちサポの取組をまとめてお聞きしまして、問題意識と方向性に関しては、そのとおりなのだろうな、間違っていないだろうな、どんどん進めていけばいいのではないかというふうに改めて思いました。

特に令和6年度のまちサポ事業計画のスケジュールを見ますと、私も今日再発見だったのですけれども、資源掘り起こしというのが真ん中に書いてあるのですね。ポイントなのだなということが思いました。

私も、里地、里山、里海の活動をやっているのですけれども、資源の掘り起こしをして、それを保全して、活用して、継承していくというのがグランドデザインというか、重要なんですね。

今のお話を聞いていますと、資源の掘り起こしをし、まさに保全し、活用し、次に継承していくこと、最後の継承のところが、私の分野でも大変なののですけれども、今まさにそうしたことを考える時期に来ているということかなと思いました。

9月に体験シェア会がありましたけれども、あのときに改めて私の分野でも、専門でもよく言われているのですが、若者たち世代とシニア層は、すごく相性が良く、うまくいくのです。いろいろな理由があるのですけれども、双方元気になるのですね。若者だけではなくて、高齢者のシニア層も、すごく元気になるのですね。それが観察できました。若干、高校生は結構にぎやかすぎたかなという感じがしましたが、良かったと思います。

○委員長 元気があっていいですね。

○●●委員 はい、私の目の前のグループなんか、ずっと同じ最年少でやっていましたけれども、両方とも元気になるのですね。そういう取組を進めていくことが大事かなと。発達させていくことが大事かなと考えておりまして。

既に生涯学習課との連携はあるようなのですけれども、今お話あったように、高校とか、あと中学校とかだと教育委員会だとか、そういったところの連携をすごく今後充実化させていく、深めていくというのが割とポイントかなと思いました。

市民大学もありますけれども、大学なんかも含めて、連携の充実化を図っていくという戦略が一つあるかなというふうに思います。

そうすると、既に学校分野でも社会連携のことをどんどん進めていかなければという時代になってきているので、何かあるはずなんですね。いろいろなリソースといいますか、機会というのが確かにあると感じます。

今、確かに白井市も、ボランティア団体だったり、市民活動団体は、シニア層が中心のなところにはなっていると思います。一部若手でやっているところもありますけれども、市民団体にないリソースは、ほかの教育委員会、教育セクションだとか、市外も含めて、大学だとか、こういったところとも連携充実化の戦略というのは進めていけると、今おっしゃったような様々な次の継承とかの実現度が高まるのではないかと思います。

だけど、シニア層の皆さんは、生涯にわたって元気にやってもらいたいという感じなのですけれども、一方で、次世代への継承という部分も同時に図れるのではないかなと思いましたので、そんなようなことを考えたということを共有します。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

最後に事務局からコメントはありますか。全体を受けて。

○事務局 ありがとうございました。皆様から貴重なアドバイスを頂いて、もっと頑張らなきゃいけないと思った次第です。

先日、日曜日出勤していましたら、ふらりと中学生が来まして、見た子だなと思ったら、夏休みに体験してくれた子だったのですね。何かなと思ったら、あの体験会、またやりますかと言われて。今度の夏、またやるよと。そしたら夏ですかって。今からやりたいという感じだったのです。今年度の夏参加してくれた子だったのです。いい子だなと。お父さんと一緒に来ていたようです。お父さんは外で待っていて、中学2年生の男の子が僕のところに来て、いろいろと話しかけてくれて。こういう子がこれから白井を支えてくれる。僕たちはそれを応援していかなきゃいけないなと思い強くしました。

さっそくいろいろな団体の活動をお教えしながら、地域活動講座を御紹介したら、12月21日の講座にも体験してくれると。やってくれるということになりまして、中学生にはちょっと早いかなと思ったけれども、全然参加できる活動でもありましたので、こういう子をどんどん増やしていきたいと。今後この子たちと今の団体の皆様、そして今活動しているシニア層の団体の人たちも元気にしていきたいなと思って、皆さんの意見も参考にさせていただきながら進めていきたいと思います。

以上です。

### 議事3 今後の委員会予定について

質疑なし